

生田緑地で新たに確認された台湾リス

堀内 慈恵*

New Records of the Formosan squirrel
Recognized in Ikuta Ryokuchi
Yoshie Horiuchi*

国の特定外来生物に指定されている台湾リス *Callosciurus erythraeus taiwanensis* は、和名ではクリハラリス *C. erythraeus* と呼ばれる種の1亜種である。日本には台湾南部の亜種が導入され定着した。餌が不足する季節は樹皮を齧り、樹液を舐めたり、花や葉も食べるため、植物への影響が大きい。また、人家の戸袋を削って住み着いたり、電話線を齧るなどの被害が増加している(田村, 2002)。

神奈川県では鎌倉市、藤沢市、横浜市南部や逗子市、葉山町など県東部域で分布が拡大する傾向にある。現在のところ相模川以西の県西部地域には生息していない(中村, 2003)。今まで川崎市での生息記録はなかったが、生田緑地で確認されたため報告する。

台湾リスは生態系への影響が大きく、また住宅地への被害も懸念される。そのため、引き続き調査を続けていく必要があると思われる。

末筆ではあるが、貴重な情報と写真を提供してくださった生田緑地来園者の方々に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 田村典子 (2002) 台湾リス. 日本生態学会 (編) 外来種ハンドブック : 66. 地人書館, 東京
中村一恵 (2003) 台湾リス. 神奈川県立生命の星・地球博物館 (編) かながわの自然図鑑③哺乳類 : 101. 有隣堂, 横浜.



写真1 生田緑地で撮影された台湾リス

平成24年11月4日、公園管理事務所より台湾リスを見た来園者がいるとの情報が入った。その情報をもとに筆者が生田緑地内にて来園者に確認をすると、台湾リスを見た人が複数いることがわかった。そして後日、かわさき宙と緑の科学館に来園者より台湾リスの写真が届けられた。撮影場所は、科学館裏、野鳥観察小屋付近である。腹面は淡い灰褐色であり、耳の先が丸い。腹が白く、冬毛で耳の先にふさ毛が生じるニホンリスと区別できる。この場所は年間を通して、野鳥の写真撮影のために来園している人が多い。その来園者の複数の情報によると10月頃から見られるようになったということであった。その後、平成24年12月1日16時頃、科学館裏、野鳥観察小屋付近で筆者がコナラの枝にいる台湾リスを目撃した。

*川崎市青少年科学館 (かわさき宙と緑の科学館)

* Kawasaki Municipal Science Museum